

学位取得 おめでとうございます

コロナウイルス感染症が猖獗を極める中、多くの困難を乗り越えて今日の日を迎えられた皆さんに、心からお祝いの言葉を贈ります。

卒業生の皆さんは、3年次への進級を目前とした一昨年3月に、リモートでの対応を余儀なくされました。本格

学び続ける姿勢が 人生を豊かにする



学長 成田 健一

的な専門科目、そして卒業研究に取り組み2年間は、本学の学生がまさに成長する期間です。その大事な時間に対面での指導が普段通りにできなかったこと、そして何より集大成の卒研発表のタイミングが過去最大の感染ピークに重なったことは、痛恨の極みです。

世界も急速に変化しており、2035年にはインドネシアに、2050年頃にはナイジェリアに、日本はGDPで追い越されると予想されています。そんな厳しい環境の中で、皆さんは「人生百年時代」といわれる社会を生き抜いていかなければなりません。

先が見えない不確実性が高まる中、確実に言えることは、「学び続ける姿勢が皆さんの人生を豊かにする」ということです。今の時代、課題解決ばかりが強調され、「こうすれば、苦勞無しで、簡単に、お手軽に解決します」という情報があふれています。しかし、本当に肝要なのは、答えのない問題をじっくり考えて挑戦し続ける姿勢。それが社会を生き抜く武器です。解決不能なものも、安易な答えは求めない。そして、崇高なもの、魂に触れるものとの出会いも大切にしてください。

困難な時代に 新たな途を拓こう



理事長 柳澤 章

ご卒業おめでとうございます。日本工業大学での学び、技術の習得、培われたエンジニアとしてのマインド、そして恩師、仲間とのつながり。これらは、皆さんがこれから歩まれる途を切り拓く大きな力となることと確信いたします。

ら、突き詰めた方もいれば、新たな出会いから異なることに興味を持った方もいるでしょう。それぞれが4年間の成果といえるでしょう。皆さんの学生生活の後半2年間はオンラインと対面を組み合わせた形となりました。たれもが困惑と手探りの状

4年前、この宮代の地での学びをスタートしたときを記憶してほしい。この分野のエキスパートになりたい、こんな技術を手にした、作品制作をして発表したいなど、様々な思いを抱かれたのではないだろうか。その思いは、様々な刺激を受けなが

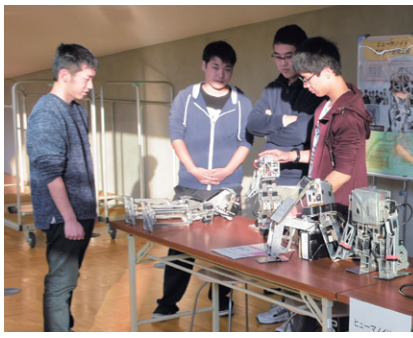
態から、新たな学び方を開始しました。友人とのコミュニケーションの仕方も大きく変化したかと思えますが、より豊かな時間をともに過ごすため、いろいろな工夫をされたのだろうと想像します。世の中に目を向けると、テレワークやわうち時間に対応するビジネスが活

発です。ドローン、ロボット、非接触技術、さらに新しい住宅やライフスタイルの提案など次々と登場しています。また、「自分のやっている仕事は、世の中で必要とされているのか? 不要不急ではないのか?」というモヤモヤした気持ちを抱く人も少なくありませんが、それを吹き飛ばすような意欲的なアーティスト等の活動も多いと思います。企業の側もテレワークに留まらない新しい働き方を模索していますし、新事業を立ち上げるためのビジネスマッチングのサイトも活発化しています。さらに、社会の課題にビジネスで解決を目指す社会起業家が次の社会起業家を支援するという、これまでにないネットワークも生まれています。

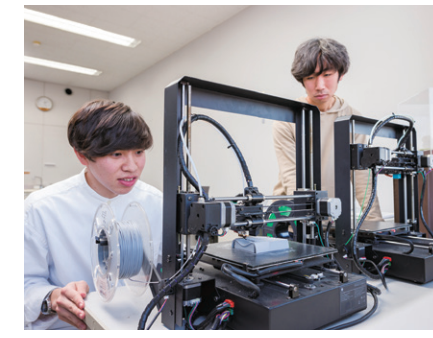
カレッジマイスターエクセレントに19名認定

ものづくりの現場での活躍を期待

カレッジマイスタープログラムでは、各プログラム分野において高い見識・知識および技術を身につけたと認められた学生に、マイスターの称号が与えられる。今回は41名が3年生修了時にカレッジマイスターの称号を得ており、その中でも特に優れた19名には、学位記授与式においてカレッジマイスターエクセレントの賞状とゴールドメダルが授与される。これらの受賞者は、今後も「ものづくり」における高い総合力を発揮し、社会に大きく貢献することが期待される。各プログラムでの受賞者数は、物理体感工房(1名)、機械加工工房(3名)、フォーミュラ工房(1名)、モノ創りデザイン工房(4名)、知能化モビリティ(1名)、Science Grit(1名)、ヒューマノイドロボット研究(3名)、フィジカルコンピューティング工房(1名)、木造建築工房(4名)である。



ヒューマノイドロボット研究



モノ創りデザイン工房

環境特別講演会開催報告

昭和から令和へ 建築による環境の再創世

建築からの令和へ

本講演会は毎年定期開催されており、今年も1月22日に学友会館大ホールにおいて、コロナ感染防止のため、ソーシャルディスタンスを取った対面とオンラインのハイブリッド形式で実施されました。今回の講演は「昭和から令和へ、建築による環境の再創世」をテーマに早稲田大学創造理工学部建築学科教授の高口洋人氏を迎えて行われた。講演内容は、昭和から令和までの人口の推移を基軸に置いた環境・社会・経済の変化についての解説を導き、半世紀前からの環境問題の解決と省エネ建築や脱炭素に向けた住宅建築の取り組みなどの紹介があった。また、高口教授を中心とする早稲田大学と芝浦工業大学が共同で研究しているゼロエネルギーハウス(ZEH)の設備構成や制御システムなどが図解された。そして、ZEHの普及に影響を与える要因として、昭和の物理的欲求から、令和時代の精神的欲求へと、豊かさをもたらす変化についても取り上げ、今後の課題など掘り下げた解説も加えられた。さらに、ライフサイクルカーボンマイナス(LCCM)住宅など、最先端の脱炭素住宅の説明もあった。後半では令和時代の建築業界が住宅生産の大きな変化による高性能化と人出不足の課題解決に向け、パネル工法で短時間に建物が出る現場の動画も交え、大変興味深い講演となった。最後は会場の聴講者から、建築業界が抱えている職人の高齢化問題やその技術的対策など、多数の活発な質疑応答のうちに幕を閉じた。参加者数は会場来場者が約20名、オンラインによる視聴者が約100名であった。



講演の動画



講師の高口氏 建築の取り組み

埼玉キャンパス 4年間の思い出

本館

日本工業大学 入学式



入学式

2018年4月

フレッシュマン キャンプ 2018年4月



体育祭

2018年10月



学生自治会 2018年4月 ウェルカムパーティ



夏祭り

2019年8月



若杉祭

2019年11月



学生総会

2021年11月



多目的講義棟

◆主に4年生(卒業生)が写っている写真を掲載しています
◆年月は掲載写真の撮影時期を表しています
◆★印の写真は学生自治会卒業アルバム委員会より提供されました



就職相談コーナーでは個別の相談に対応

2月15日～25日の8日間、本学学生のための学内合同企業説明会を開催し、低学年を含め600人以上が参加した。参加企業は、卒業生とのパイプが太く、新学科に対する採用意欲も高い388社であった。学部3年生、大学院1年生は、就職活動を目前に控え、各社の雰囲気や具体的な仕事内容など、ホームページや求人票からは得ることのできない貴重な情報を聞き逃すまいと、真剣な眼差しで参加していた。また、既にキャリアア科目を受講したことで、就職に対しての意識が高まった多数の学部1、2年生が、今後

参加することになるであろうインターンシップを見据え、業界・企業研究を目的として参加していた。さらに、説明会の期間中には、本学のキャリアアドバイザーによる「学生のための就職相談コーナー」を設けた。ここでは、今後の活動の進め方や提出書類に関する質問など、企業担当者との面談後に生じた相談の希望に、速やかに対応することができた。本番に向けての早めの準備が今後の成果に結びつく。

新型コロナウイルスの影響で、学生は不安を感じながら就職活動に臨んでいる。就職支援課では一人ひとりの夢の実現に向けて、これからも全力でサポートをしていく。

私事で恐縮ですが、私は今月をもち日工大専門職大学院を定年で退職することになりました。専門職大学院設立直後から8年間は客員教授として、後の9年間は専任教授として、合計17年を皆様とお世話になりました。

この17年の日本経済を振り返ると、日本経済は1990年代前半のバブル崩壊から低成長が続き、依然そこから脱することができていません。一方、将来に目を向けると、このまま経済成長の停滞が続くと、近い将来

一人当たりのGDPが韓国や台湾にも抜かれるとの予測もあります。日本がこのような状況を脱する方法は何か。それは、政府の政策や外的環境の好転に期待することではなく、日本人自身が変わることであると思います。そのためには、日本人が主体的に学習・再学習することが必須だと思います。その面から、日本の教育機関は、日本の経済や社会の再生においてきわめて大きな役割を担っていると言えます。日本の教育機関が、その

の細部ではなく広く社会全体に目を向けると、新しい価値を創出する機会がそれこそ無数にあります。それら新しい価値を創出する機会が、経営においては弱みの解消ではなく、強みの追求の重要性を唱えています。

梅谷篤史准教授、狩野みか准教授、鳥塚潔講師、佐藤由佳講師が務め、科学分野の興味喚起に繋がる催しが実施された。前半は「動き回る紙コップ」「LEDカラーライト」「ミニホバークラフト」「骨伝導スピーカー」の4テーマで工作が実施された。後半は4号館の大教室においてサイエンスショーが開催された。冒頭、佐藤由佳講師が「科学者とは、自然科学分野において不明なことを解明

本学公式SNSのご案内

YouTube, Twitter, LINE, Facebook, Instagram

聞いて、感じて 学内で企業説明会開催

2月15日～25日の8日間、本学学生のための学内合同企業説明会を開催し、低学年を含め600人以上が参加した。参加企業は、卒業生とのパイプが太く、新学科に対する採用意欲も高い388社であった。学部3年生、大学院1年生は、就職活動を目前に控え、各社の雰囲気や具体的な仕事内容など、ホームページや求人票からは得ることのできない貴重な情報を聞き逃すまいと、真剣な眼差しで参加していた。また、既にキャリアア科目を受講したことで、就職に対しての意識が高まった多数の学部1、2年生が、今後

参加することになるであろうインターンシップを見据え、業界・企業研究を目的として参加していた。さらに、説明会の期間中には、本学のキャリアアドバイザーによる「学生のための就職相談コーナー」を設けた。ここでは、今後の活動の進め方や提出書類に関する質問など、企業担当者との面談後に生じた相談の希望に、速やかに対応することができた。本番に向けての早めの準備が今後の成果に結びつく。

私事で恐縮ですが、私は今月をもち日工大専門職大学院を定年で退職することになりました。専門職大学院設立直後から8年間は客員教授として、後の9年間は専任教授として、合計17年を皆様とお世話になりました。

この17年の日本経済を振り返ると、日本経済は1990年代前半のバブル崩壊から低成長が続き、依然そこから脱することができていません。一方、将来に目を向けると、このまま経済成長の停滞が続くと、近い将来

一人当たりのGDPが韓国や台湾にも抜かれるとの予測もあります。日本がこのような状況を脱する方法は何か。それは、政府の政策や外的環境の好転に期待することではなく、日本人自身が変わることであると思います。そのためには、日本人が主体的に学習・再学習することが必須だと思います。その面から、日本の教育機関は、日本の経済や社会の再生においてきわめて大きな役割を担っていると言えます。日本の教育機関が、その

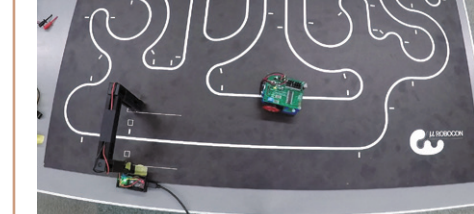
の細部ではなく広く社会全体に目を向けると、新しい価値を創出する機会がそれこそ無数にあります。それら新しい価値を創出する機会が、経営においては弱みの解消ではなく、強みの追求の重要性を唱えています。

梅谷篤史准教授、狩野みか准教授、鳥塚潔講師、佐藤由佳講師が務め、科学分野の興味喚起に繋がる催しが実施された。前半は「動き回る紙コップ」「LEDカラーライト」「ミニホバークラフト」「骨伝導スピーカー」の4テーマで工作が実施された。後半は4号館の大教室においてサイエンスショーが開催された。冒頭、佐藤由佳講師が「科学者とは、自然科学分野において不明なことを解明

梅谷篤史准教授、狩野みか准教授、鳥塚潔講師、佐藤由佳講師が務め、科学分野の興味喚起に繋がる催しが実施された。前半は「動き回る紙コップ」「LEDカラーライト」「ミニホバークラフト」「骨伝導スピーカー」の4テーマで工作が実施された。後半は4号館の大教室においてサイエンスショーが開催された。冒頭、佐藤由佳講師が「科学者とは、自然科学分野において不明なことを解明

梅谷篤史准教授、狩野みか准教授、鳥塚潔講師、佐藤由佳講師が務め、科学分野の興味喚起に繋がる催しが実施された。前半は「動き回る紙コップ」「LEDカラーライト」「ミニホバークラフト」「骨伝導スピーカー」の4テーマで工作が実施された。後半は4号館の大教室においてサイエンスショーが開催された。冒頭、佐藤由佳講師が「科学者とは、自然科学分野において不明なことを解明

マイクロロボコン高校生大会 昨年引き続きオンラインで開催



録画された走行動画と計測タイムで審査



表彰式の様子もYouTubeで公開

第15回マイクロロボコン高校生大会は12月25日に本学での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策として遠隔で開催された。

大会にエントリーした各高校にオリジナルのコースとタイマーを送り、各高校で計測と撮影が行われた。計測結果が本学に送られ、集計する形での開催となった。本年度は、1年間を通して各高校とも活動が禁止される期間があるなど、ロボットの製作や調整が難しい状況にあった。本学での講習会も開催できず参加人数

は少なくなってしまったが、新たな参加高校もあり、こういった状況の中でも各高校が工夫をして教育を行っていく姿勢が感じられた。大会結果は、各高校から送られてきた映像と審査・表彰の様子を撮影したものを合わせて、YouTube上で公開した。

2年続けて遠隔での開催となってしまったが、会場に来ての緊張感や他校との交流が足りない点から本学での開催を望む声が多く、来年度は本学での開催が望まれている。

競技結果表

順位・表	高校名	操縦者	ロボット名
1インチ部門	優勝	愛媛県立松山工業高等学校	芳野 魁星 SKY
	準優勝	愛媛県立松山工業高等学校	長瀬 一真 運慶
	第3位	愛媛県立松山工業高等学校	岡本 裕真 隼
	第4位	愛媛県立今治工業高等学校	久保 寿摩 KAZU Robot Edition
	第5位	長野県箕輪進修高等学校	酒井 幸志朗 MINOKICHI
	第6位	埼玉県立三郷工業技術高等学校	千葉 拓 愛猫
	第7位	埼玉県立三郷工業技術高等学校	福田 光 激落ち君
	第8位	東京都立八王子桑志高等学校	高橋 樹 行秋
ネームカード部門	優勝	長野県松本工業高等学校	西脇 琉晟 麻婆豆腐雀号
	準優勝	埼玉県立与野高等学校	水吉 健太 与野1号機
	第3位	埼玉県立与野高等学校	松下 菜理 与野太郎
	第4位	埼玉県立与野高等学校	大里 未来 回答ルパン
	第5位	埼玉県立与野高等学校	眞野 遼太郎 fd3s
	第6位	埼玉県立与野高等学校	川添 佑樹 パース
	第7位	明法中学高等学校	河野 雄大 とらい
	第8位	東京学芸大学附属高等学校	宮崎 泰輔 おせちくん
特別賞	技術賞	愛媛県立今治工業高等学校	久保 寿摩 KAZU Robot Edition
	エコロジー賞	長野県箕輪進修高等学校	酒井 幸志朗 MINOKICHI
	デザイン賞	福島県立塙工業高等学校	大崎 翔琉 マイクロ
	工友会賞	福島県立会津工業高等学校	青木 伶奈 トンピン
	学長賞	長野県松本工業高等学校	※学長賞は高校が受賞対象

このシンポジウムでは、第一部で日本学生相は、第一線で日本学生相

「科学者になりたい」夢を見つける体験教室

梅谷篤史准教授、狩野みか准教授、鳥塚潔講師、佐藤由佳講師が務め、科学分野の興味喚起に繋がる催しが実施された。前半は「動き回る紙コップ」「LEDカラーライト」「ミニホバークラフト」「骨伝導スピーカー」の4テーマで工作が実施された。後半は4号館の大教室においてサイエンスショーが開催された。冒頭、佐藤由佳講師が「科学者とは、自然科学分野において不明なことを解明

障がいのある学生と合理的配慮

談学会理事長の高石恭子氏を講師に招き、障害者差別解消法のあらまし、支援対象となりうる学生の障がい種別の紹介、精神・発達障がい学生に対する基本的な考え方、合理的配慮と支援の留意点等について講演が行われた。また、甲南大学理工学系部での配慮内容の事例も紹介され、他大の状況を知る良い機会となった。

第二部では川合学生相談室長より、学生相談室経由で合理的配慮を受けた。当日は会場での対面型のみで開催であったが、100名超の教職員が聴講し、本テーマへの関心の高さが伺えた。今後の学生支援の一層の充実が期待される。

学生の学科別・主たる診断別件数が報告された。また、本学における発達障がい学生対応の今後の検討課題もあげられた。全体を通して障がい学生への理解が深まり、極めて有意義な講演会となった。

し、新たな発見をする人」と説明。自身が物理系教員を目指した経緯を紹介した。続いて「超実験ショー」と題し、液体窒素を使った「超低温」身の周りのモノを圧縮する「超高圧」、空気の威力を試す「超高速」の実験が披露された。子供たちは目の前で起る様々な現象に驚き、科学への興味を深めた。

教育改革シンポジウム開催報告

障がいのある学生と合理的配慮



講師の高石氏

※各記事の写真は撮影時のみマスクを外しています

学生代表と学長の昼食会 コロナ禍の対応を説明



成田学長、中野学生支援部長と学生自治会所属委員会の新委員長が懇談

1月13日、学長と学生自治会代表者の懇親昼食会が開催された。成田学長、中野学生支援部長、齊藤学生支援課長、高橋中央執行委員会委員長らが参加し、有意義な意見交換を行った。

昼食時は、新型コロナウイルス感染症対策として「黙食」を徹底しての開催となった。学生は終始緊張した表情だったが、自己紹介や各委員会が抱える課題、今後の活動について、コロナ禍で、活動やイベントに制限が課されている課外活動について話が及ぶと、学長は「新型コロナウイルスの感染状況は刻々と変化しており、イベントの制限や運営について、将来のことを断言するのは難しい。常に一定の制限が課される状況が続いていることから、前例踏襲の活動ではなく、コロナ禍でできる活動を自分たちで企画し、チャレンジしてもらいたい。そうした活動を大学側も期待している」と語った。

また、加入者減少傾向が続いている学生自治会各団体の新人勧誘活動に話が及ぶと、学長は「学生のみならず、それぞれの活動経験から得られたものを、是非、新人勧誘活動でアピールして欲しい。『自分がこんな活動やイベントを企画して実施したんだ』という経験も非常に重要なアピールポイントである。常に新しい視点をもって、積極的に活動してもらいたい」と助言した。

2021年度 学長賞・英語教育センター長賞

学長賞は学業成績が特に優秀な学部卒業生と大学院修了生を対象とし、学会等への論文投稿や表彰件数などの実績をもとに選考される。英語教育センター長賞は、英語科目で特に成績が優秀であると認められた学部生が対象となる。

学長賞受賞者 (学部生)

学 科	氏 名	出身校
機械工学科		
電気電子通信工学科		
応用化学科		
ロボティクス学科		

学 科	氏 名	出身校
情報メディア工学科		
建築学科 建築コース		
建築学科生活環境デザインコース		

学長賞受賞者 (大学院生)

専 攻	氏 名
機械システム工学専攻	
電子情報メディア工学専攻	

英語教育センター長賞受賞者 (学部生)

学 科	氏 名	出身校
機械工学科		
建築学科生活環境デザインコース		

我が家の思い出を保存 空き家問題解決の提案

11月25日開催の第18回キャンパスベンチャーグランプリ東京大会において、建築学部3学年6名のチームが「りそな銀行賞」を受賞した。受賞プラン名は「我が家の思い出」アーカイビングサービス。チームリーダーを務める建築学科建築コース3年の大石健斗さんが「起業とビジネスプラン」の授業課題として立案した。

空き家問題の原因の一つが「思い出の詰まった我が家を手放すことが心苦しい」という心の問題にあるとし、思い出を模型やVRとして保存するサービスを提供する案。気持ちの整理をつけることで中古不動産の流通活性化を促し、空き家問題解決へと繋げる狙いがある。実



オンライン審査のため、プレゼン動画の説得力にもこだわった。我が家を手放すことが心苦しいという心の問題にあるとし、思い出を模型やVRとして保存するサービスを提供する案。気持ちの整理をつけることで中古不動産の流通活性化を促し、空き家問題解決へと繋げる狙いがある。実

機械システム工学専攻博士前期課程1年(加藤研究室)の青木智也さん、阿藤大輝さん、篠原淳希さんのチームが12月7日、一般社団法人さいしんコラボ産学官主催「開放特許を活用した学生アイデア発表会in埼玉」の審査員特別賞を受賞した。

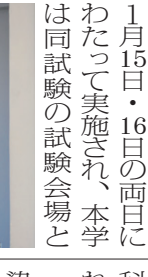
本コンテストは大手企業が有する開放特許を活用し、福島県双葉郡楢葉町の協力を得て、現地の旅館を訪ねて測量や旧オーナーへの思い出のヒアリングを行い、プランの実現性やニーズを調査した。こうした社会課題に向き合う姿勢や積極性

が評価された。受賞に際し大石さんは「楢葉町の方々や指導教員、チームメンバーに大変感謝している。このプロジェクトを成功させ、町の活性化に貢献したい」と抱負を述べた。

クーポン配信プログラムで 学食の混雑を緩和

用して、中小企業でも製造・販売可能な製品アイデアを考案し、プレゼンテーションを行うビジネスプランコンテスト。

本学チームの受賞プランは「クーポン配信プログラム」。富士通が有する特許を活用し、学食の混雑緩和を目的として、学生の時間割に応じてクーポン配信を行うプランを提案。空席がない時間帯には購買部で使用可能なクーポンを配布するなど学食利用者の分散を図り、繁忙時の座席不足解消を目指す。



(左より) 青木さん、阿藤さん、篠原さん

無線通信技術の研究で ポスター賞受賞

革新的無線通信技術に関する横断型研究会MIKA2021が10月29日に開催され、電子情報メディア工学専攻・電気電子通信工学科の学生4名がMIKA2021ポスター賞若手部門を受賞した(下表)。MIKAは無線分野を取り巻く様々な分野における研究を横断的に議論する場として

所属学科/専攻	研究室名	受賞者名	受賞研究名
電子情報メディア工学専攻 博士前期課程2年	吉野研究室	茂木雄斗	IoT向け無線通信ネットワークの輻輳制御方式に関する一検討
電子情報メディア工学専攻 博士前期課程1年	平栗研究室	田島裕也	風力によるドローン間通信への影響
電気電子通信工学科4年	平栗研究室	平田 翔	ローカル5G通信品質評価と解析
電気電子通信工学科4年	平栗研究室	山田直生	エビデミック通信を実装した無線デバイスの開発

岡本太郎美術館において 「蘇るVR太陽の塔」展示

11月13日、14日、20日、21日の4日間、岡本太郎美術館(川崎市)に野研究室)の齋藤優介さん、相馬佑哉さんが卒業研究として制作しているVR(仮想現実)システムの展示を行った。同館におけるプロジェクトは今回で4年目となり、同研究室の先輩から後輩へ受け継がれてきた。本システムで

CGで再現された塔の内外をリアルに体験できる。CGで再現された塔の内外をリアルに体験できる。CGで再現された塔の内外をリアルに体験できる。CGで再現された塔の内外をリアルに体験できる。

は1970年大阪万博当時の「太陽の塔」を仮想空間に甦らせた。万博会場に設置されている太陽の塔外側を巡り、塔内部に入った後、上階に上っていく様子を再現。実際に内部を歩いているかのような体験ができる。常設展示室内には本学で作された塔のCG映像が展示されており、VRシステムはこのCG映像の一部を仮想現実化したもの。参加者は専用ゴーグルを装着し、360度の視野全てがCGで再現された迫力あるVR映像を体験した(CG映像はQRコードから視聴可)。

今年で11回目を迎える「みやしろ桜の写真コンテスト開催」卒業生のみならず、ご卒業おめでとうございます。また、在学生のみならず、ご進学おめでとうございます。今年で11回目を迎える「みやしろ桜の写真コンテスト開催」卒業生のみならず、ご卒業おめでとうございます。また、在学生のみならず、ご進学おめでとうございます。

天満宮例祭

式典は2月19日11時、五分咲きの梅が香る社殿前において斎行された。昨年に続き参列者は学内関係者に限定されたが、式次第は通常通り進行。本学の発展と御神威の発揚が祈願された。



大学入学共通テストを実施

大学入学共通テストが1月15日・16日の両日にわたって実施され、本学は同試験の試験会場となった。両日ともに各教科の試験が滞りなく行われた。

- ◆ 浪江一公教授(専門職大学院)
- ◆ 平川淳教授(専門職大学院)
- ◆ 長坂保美教授(機械工学科)
- ◆ 於保茂教授(ロボティクス学科)
- ◆ 板橋春夫教授(建築学科)
- ◆ 鳥塚潔講師(共通教育学群)
- ◆ 南谷春良講師(共通教育学群)
- ◆ 渡辺勉教授(工業教育研究所)
- ◆ 高橋陽子講師(留学生別科)

- ◆ 石川豊教授(電気電子通信工学科)
- ◆ 丸山三四四教授(共通教育学群)
- ◆ 枝根茂准教授(共通教育学群)
- ◆ 日下部恵美子事務職員(教務課)
- 【退職】(3月31日付)
- ◆ 佐々木勉教授(専門職大学院)
- ◆ 浪江一公教授(専門職大学院)
- ◆ 平川淳教授(専門職大学院)
- ◆ 長坂保美教授(機械工学科)
- ◆ 於保茂教授(ロボティクス学科)
- ◆ 板橋春夫教授(建築学科)
- ◆ 鳥塚潔講師(共通教育学群)
- ◆ 南谷春良講師(共通教育学群)
- ◆ 渡辺勉教授(工業教育研究所)
- ◆ 高橋陽子講師(留学生別科)

人事異動
【定年退職】(3月31日付)
◆ 野口裕之教授(機械工学科)